



農大だより

URL <http://www.pref.kagawa.jp/nodai/>

第12号 香川県立農業大学校
〒766-0004
仲多度郡琴平町榎井34-3
TEL 0877-75-1141 FAX 0877-75-3989
E-mail : nodai@mx8.tiki.ne.jp

- 校長あいさつ
- 先進地視察研修報告
- 中四ブロック外発表会
- 校内卒論発表会
- 同窓会だより
- 活躍する卒業生
- 技術研修科だより
- 活躍する修了生
- 学生募集



入学式：在校生代表 造園緑化コース 中川元子さんより歓迎のことば

いつも明るく笑顔あふれる農大にしよう！

校長 宮崎 正幸

これは今年度の農大のスローガンです。学生や教職員がいつも元気で前向きに勉学や業務に取り組もうという気持ちを表しています。

本校は、次代の農業を担う人材の養成を目的として設置され、学生は学内での講義や農業試験場、先進農家での実習などにより、農業についての実践的な知識と経験の習得に励んでいます。

国においても、近年、担い手の育成に本格的に取り組んでおり、昨年度から青年就農給付金制度が導入されています。これは、就農に向けて本校などで教育・研修を受ける者に年間一五〇万円を最長二年間給付するもので、これを利用すれば保護者の負担が大きく軽減されます。

また、本校は、農業教育の場であると同時に、若者の人間形成の場でもあります。人格や社交性は仲間同志の自由な交流の中でより大きく育まれます。学生達は昼休みや放課後に体育館やグラウンドでスポーツを楽しんでおり、仲間や先輩との関係が自然に身に付いています。

さらに、本校には、担い手養成科のほかに技術研修科があり、様々な年齢・経歴の方が農業の勉強に励まれています。

今後とも、明るく楽しい農大づくりに努めますので、関係者の皆様の御理解、御指導をお願いいたします。

先進地視察研修報告

野菜園芸コース



野菜園芸コースでは、福岡県の筑紫野いちご・いちじく農園、福岡県立農業大学校、JA福岡市博多じょうもんさん日佐市場を訪れ、イチゴを中心とした調査研修を行いました。

筑紫野いちご・いちじく農園は観光農園をメインに経営しており、イチゴは養液栽培システムを用いて8品種を栽培し、色々なイチゴを食べることができるようになっています。

した。また、イチゴの研究者である伏原肇氏が農園に併設したハウスで行っているイチゴ栽培システムの開発について研修しました。

福岡県立農業大学校ではイチゴを中心に、土耕栽培と養液栽培で色々なテーマで行っている試験を見学しました。学生達は、普段、イチゴは養液栽培を見ているので、土耕栽培されている様子に驚いていました。

JA福岡市博多じょうもんさん日佐市場は都市部にある産直施設ですが、ここでは福岡県の育成品種であるイチゴ「あまおう」について積極的に売り込みをしている様子を見ることができました。「あまおう」を使用した加工品もコーナーを作って販売していました。「あまおう祭り」として博多駅でイベントを開催するなど、県内での消費拡大にも力を入れているとのことでした。

イチゴの大産地である福岡県で意欲的な取り組みの事例を調査し、大いに今後の励みになったと思います。

花き園芸コース



花き園芸コース八名は、長崎県の県立農大及びJA産直のほか、福岡県の花市場で研修を行いました。

今回は従来と趣向を変え、長崎農大の花きコース一年生と交流しました。長崎農大のほ場面積や施設数は本校の約二・五倍あり、それを一年生六名が中心となって管理しているとのことでした。交流会では各学生が自分の管理しているほ場を案内しながら卒論の内容を中心に説明した後、学生同志で自由に意見交換しました。香川農大の学生は、自分た

ちより少ない人数で自分たちより広い面積をこなしている長崎農大の学生に驚いているようでした。

長崎市内にあるJA産直「びわっちファーム」では花の販売状況を中心に見学しました。彼岸直前だったこともあり、店頭には並ぶ花の種類も多く、ランキュラスは同品目の大産地を抱える九州だけあって、多くの品種が販売されていました。

福岡花市場は九州で最も大きな花市場で、一般的な都市市場と違って農業協同組合の一組織として運営されており、年間販売額は約四、五〇〇億円、九州産花きの取り扱いが中心ですが、輸入物も二十％程度あるそうです。

ほとんどの品物が相対で取引されており、他の都市市場と違うのは、市場内で花束加工し、大型量販店へ卸している点でした。

今回の研修で、初めて他県の農業大学校生と交流し、ほ場規模や管理方法等の違いを実感したことで、学生達は多に刺激を受けました。

果樹園芸コース

果樹園芸コース八名は、福岡県久留米市の果樹苗木業者並びに八女市のキウイ産地で研修を行いました。

久留米市の苗木業者では、同地域で果樹苗木の生産が盛んなのは、戦前に行われていた桑栽培で接木の技術があったことと、耳納連山と筑後川のおかげで水が豊富で気象災害も少なく、良い苗木が生産できるからだということを聞きました。苗木の良し悪しは果樹栽培の根幹に関わることなので、全国のネットワークで情報を集めているそうです。

八女市のキウイ産地ではJAの指導員から話を伺いました。主力のヘイワードでは品質によって「博多完熟娘」、「博多甘香」といったブランドを持っており、生産者間の品質のばらつきを無くするために独自の栽培マニュアルを作成し、年に数回を全園巡回して指導しているということでした。

造園緑化コース



一日目は、京都で世界遺産である二条城二の丸の、誠にどっしりとした書院造り庭園や、皇族の別荘として作庭され比叡山を借景に自然の地形を利用した修学院離宮の五十四haの広大な庭園を堪能しました。

二日目は、滋賀県に移動し、現代の名工である近江庭園の寺下氏から、西芳寺（苔寺）の話や石積みについて話をお聞きしました。また、ご自宅と庭を見学させていただきました。研修場所の中で最も有益で、全員で感動し、石積み

に大いに興味がわきました。三日目は、東京の新宿伊勢丹の屋上庭園や、浜離宮恩賜庭園など五か所を廻り大都市での緑化の現状を視察しました。京都から東京への移動は夜行バスを利用するやや強行軍でしたが、最先端の文化にも触れられ良い刺激になりました。

畜産コース



畜産コースは、これからの畜産経営のあり方を学ぶため、六次産業の先端に行く養豚場を中心研修しました。初日は、東京のデパートで食肉販売の状況を視察しまし

たが、百グラム八千四百円の松阪牛なども販売されていて、都会ならではの高級肉販売に驚きました。



埼玉県の株式会社埼玉種畜牧場（サイボクハム）では、休日には一日三万人もの来場者があると聞いてびっくりしました。場内には、ハム・ソーセージ工場のほか、ミートショップ、レストラン、カフェテリア、農産物の産直、米屋、狭山茶の店、さらにはパークゴルフ場や陶芸教室、アスレチックなどもあり、農業ダイズニーランド的なテーマパークとなっています。スローガンは「緑の牧場か

ら食卓まで」、「農業の完全一貫経営」です。世界でも高い評価を受けており、やわらかくてさっぱりしている肉は全国一おいしいと評判だそうです。オンリーワンを目指すその自信に満ちた経営理念に、経営発展の真髄を見た気がしました。

最後に、東京都中央卸売市場食肉市場で牛枝肉のセリを見学しました。セリ場へ行くまでの徹底した衛生対策が印象的でした。

一日の処理頭数は、平均して牛六百頭、豚千二百頭で、県内とは比べものにならないほど多くの枝肉を目にするこ

とができました。今回の研修は、畜産関係の農業法人などへ就職する学生にとつて、今後の畜産経営を考

中国四国ブロックプロジェクト発表会

平成二十五年一月二十四日、宇多津町において開催されたプロジェクト発表会で、野菜

園芸コースの杉峯成美さんが「露地アスパラガスの最重要病害、茎枯病の防除に挑戦!」、花き園芸コースの大山竜司さんが「改良型拍動灌水装置を用いた夏ギクの節水栽培」について発表しました。

当日は、中国四国地域の九校から二十課題の発表がありました。各自持ち時間を十分に活用し、熱心なレベルの高い発表会となりました。

校内卒業論文発表会

平成二十五年一月十八日、校内卒業論文発表会が行われました。二年生は、専攻実習の授業の中で課題を設定し、調査研究した結果を取りまとめ、発表に臨みました。

学生達は、持ち時間の中で研究成果や問題点、生産現場での実用性などを発表しました。

優秀者は次の通りです。

野菜園芸	杉峯 成美
花き園芸	大山 竜司
花き園芸	武部 新平
果樹園芸	高尾 遼平
畜産	寺田 侑矢

表 平成24年度卒業論文発表テーマ

コース	氏名	卒業論文発表テーマ
野菜園芸	池内 翔	コストを抑えた培土がイチゴの生育に及ぼす影響
	大山 浩輝	種子繁殖型イチゴの育苗と栽培の検討
	喜多 紘史	ミニトマトの夏秋どり作型における優良品種の検討
	行圓 隆宏	セルトレイの違いがレタスの生育に及ぼす影響
	柴田 委哉	移植機「ひっぱりくん」導入による定植作業の省力化
	清水 鷹樹	量販店販売に適した秋取りキャベツの品種選定
	杉峯 成美	露地アスパラガスの最重要病害、茎枯病の防除に挑戦!
	竹本 護	ブロッコリーの栽培方法の違いが生育・収量に及ぼす影響
	富田 篤	ブロッコリーの全天候型移植栽培の可能性の検討
	道上 萌恵	「食べて菜」の知名度向上方法の検討
花き園芸	湯原 健一	アップカット耕運がレタスとブロッコリーの生育に及ぼす影響
	大山 竜司	改良型拍動灌水装置を用いた夏ギクの節水栽培
	武部 新平	輪ギク経営に向けた栽培技術の習得と作型の検討
	二宮 遥	低温・短日における電照がヒマワリの切花品質に及ぼす影響
	松岡 美咲	育苗培土がトルコギキョウの苗の生育及び切花品質に及ぼす影響
果樹園芸	溝渕 智貴	キク電照栽培における白熱電球の代替光源の検討
	江村 兼一	小房「シャインマスカット」の検討
	奥田 涼介	カキ「太秋」の中性果の商品化
	高尾 遼平	キウイフルーツ「香緑」の毛じ処理果実の商品性について
	乃村 祐輔	ウンシュウミカン「小原紅早生」の摘果方法の違いが果実品質に及ぼす影響
	福浜 良紀	極早生ウンシュウ「ゆら早生」における摘果方法の違いが果実品質および樹勢に及ぼす影響
	宮武 貴大	ブドウ若木「シャインマスカット」のフルメット液剤による果実肥大促進効果の検討
緑造園	森 映歩	モモの摘蕾でパークストリッパーを使用した際の作業の省力化と果実への影響
	井上 広樹	スモールガーデンの作成から考えるヒートアイランド現象の緩和
	富田 洋平	苔の生育試験と3号庭園の改修工事
	岩滝 茉莉奈	鶏のアニマルウェルフェアに対応した飼養管理
畜産	河合 駿明	未利用作物(ニガウリ)による緑のカーテンの効果と牛飼料としての利用性について
	寺田 侑矢	ウシ凍結精液融解後精子活力に与える影響
	山地 大介	雄豚の去勢時期による肉質の比較について

トピックス

五月十八日、十九日に開催された善通寺フラワー&ガーデンフェスタにおいて、本校造園緑化コースが見事金賞を受賞しました。



同窓会だより

同窓会長 亀割浩三さん(六十一才)

私は、昭和四十七年三月に

農業短期大学校を卒業しました。住所は高松市亀水町、五色台の麓で柑橘類、びわ等農業の盛んな地域です。卒業後、香川県庁に一般事務職として就職し、両親が営んでいた水田四〇a、柑橘類一五〇aを繁忙期に手伝う程度でした。

■農業への取り組み

本格的に農業に取り組みもうと思ったのは一〇年ほど前です。父の病気もありましたが、大きく影響したのは、ヨーロッパ諸国の国民が、農業を大切にすること、また、伝統的な有機農法を大切にしたり、農村の自然と風景を大事にし、都市に住む市民が農村に滞在して交流するグリーンツーリズムが盛んなことでした。一方、日本では「農は国の基本」と言いますが、農村から若者は都市部へ出ていき、過疎と高齢化で集落が崩壊し、農山村は荒れ、国民の食料自給率の低下に歯止めがかかっていません。私の近隣でも、基盤整備された条件の良い農地でも耕作放棄が始め、なんとかできないかという思いが高

まってきた。今日のグローバル化によって諸外国の何でも安いものが流通してしまいが、大切なものをどんどん失っているように思えてなりません。



■亀水ファームの設立

そこで、まず、今住んでいる人々が元気にすることだと思いました。こんな思いを何とかしたくて近所の友人に呼びかけたところ四人が賛同してくれ、農業生産団体「亀水ファーム21」を平成十七年に立ち上げました。当時はそれぞれ自分の仕事を持ちながらの出発でした。米、うどん用

の小麦、黒大豆など借地も含めて一〇〇a程で始めましたが、水管理、雑草処理など、いくつもの困難に直面しました。八年を経過し、水稲三〇〇a、水稲作業受託一〇〇a、小麦八〇a、にんにく三〇aと規模を拡大してきましたが、機械類の設備投資などで経営的には大変な状況です。

励みになるのは、集落に對話が広がったことです。私たちがいい加減なことをしていると何でも教えてくれます。高齢者が体得している経験と技術のすばらしさに驚きます。また、繁忙期には短期間ですが雇用の場もでき、喜ばれます。また、収穫したものが安心して美味しいと言われることです。小麦粉を使った「だんご汁」は地域行事で大好評です。

■同窓会活動を活発に

昨年は、近所で三十歳前後の若者が三人新規就農しました。内一人は農大の卒業生です。農業を始めて、また、農業大学校一〇〇周年事業実行委員会への参加を通じ、多く

の卒業生の皆さんが様々な場で活躍されていることを知りました。しかしながら交流の場が少ないように思います。同窓会活動を活発にすることは、在校生の励みにもなり、農業を志す若者が増え、農大の発展にもつながることと思います。

活躍する卒業生

葛原仁さん(へまんのう町)



葛原さんは、平成五年度に農大を卒業した後、教育助手、農家研修を経て、平成七年に

就農し、経営を開始しました。現在は、施設二四〇〇㎡と露地五〇〇㎡で鉢花の専作経営を行っており、労働力は、本人と奥さん、父親のほかパート二名です。栽培品目は、基幹品目であるガーベラをはじめ、マーガレット、ポインセチア、カーネーション、オステオスペルマム、カラー、ゼラニウム、ペラルゴニウムなど十七品目です。

農大時代の経験で良かったことは、二年生の専攻実習先(洋ランの農業法人)で、社員の人達と付き合う中で人間関係や社会勉強ができたことで、その後も役立っているとのことです。

以前に比べて鉢花の消費が低迷する中、現在の経営対策として、生産費の低コスト化を図っており、とくに近年の燃油高騰に対してヒートポンプや保温性資材の使用により燃油消費量の抑制に努めています。

また、従来は大口品目の生産が主体でしたが、他産地との住み分けや消費動向に合わせ、少量多品目をうまく組み

合わせて施設回転率を高め、坪当たり収益性の確保、向上を図っています。

その他にも、販売面では市場におけるトレッドフェアへの参画やネット予約販売など、時代の流れに対応した営業、販売活動にも積極的に取り組んでいます。

農大を卒業して二十年が過ぎた現在、今後の経営に対する抱負を語る葛原さんには、農業経営者としての顔が窺えました。

技術研修科だより



平成二十五年度は就農実践研修生十三名、就農準備研修I期生二十四名、更に職業訓練の六名が四月から研修を受講しています。

入校式から一ヶ月が経過し、一緒に作業をするうちに、お互いの農業への志を話すなど打ち解けてきました。

実習では、だんだん暑くなる中、夏野菜の定植や整枝、支柱立てなどの作業は時期を逃せないものが多く、ハードな作業を週三回の農場実習の時間内で協力しながらこなしています。

現在、ハウスの中はトマトやピーマンの定植を終え、支柱とマイカ線が張り巡らされて整然としています。これからどんどんと大きくなり、緑で覆われたハウス内を想像すると楽しみでもあり、暑さに恐怖を感じたりもします。

活躍する修了生

村尾秀樹さん(丸亀市綾歌町)

大阪からUターンして丸亀

市綾歌町で農業に取り組み始めた村尾秀樹さんを紹介しま

す。村尾さんは平成二十二年度の本校研修科修了生です。野菜コースで一年間野菜栽培の研修を受けられました。

家庭の事情で会社を早期退職後、自宅にある一ヘクタールの農地を活用して野菜栽培をしたいと研修を受講されました。農地は栗熊の山沿いにあるため、棚田で筆数が多く畦畔面積が大きく、イノシシの被害も発生するデメリットを抱えています。

研修期間中は、熱心に栽培技術を学び、研修生仲間とも情報交換に努められました。研修期間中からトマト、レタス、ナバナなどを地元の産直市で販売し、少量多品目で試行錯誤しながら積極的に販売に取り組みされました。

研修を修了して二年余りが経過した現在、産直市での販売を主にトマト、ナス、キュウリ、スイカ、ピーマン、ナバナ、キャベツ、ハクサイ、ホウレンソウ、ニンジン、ダイコン、ジャガイモ、タマネ

ギなどの野菜を栽培し、研修の成果を着実に実践していま



す。その中で、少量多品目販売での改善点が見えてきたようで、産直出荷の効率を上げていく必要性を感じられています。品目を絞って少品目でロットを大きくして効率性を高める方向も模索しているところと見えます。今年にはニンニク、ブロッコリー、黒豆に取り組み予定だそうです。

親から受け継いだ農地を守り、所得の向上を目指して意欲的に農業に挑戦する村尾さんの益々のご活躍をお祈りします。

直売所のお知らせ

正門横の学生会館で月、水、金曜日に直売所を開設しています。時間は十二時四十五分〜十三時十五分です。野菜、花き、果樹コースの学生が日ごろの実習で栽培した農産物を販売しています。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。



農業大学校教職員名簿

- 校長 宮崎正幸
- 副校長 合田雅和
- 総務研修課長 蓮井誠太郎
- (庶務・経理担当)
- 副主幹 宮西恵子
- 主任 松林好則・松岡朋子
- 高橋利治
- 主任 高橋利治
- (研修担当)
- 教授 瀧川裕史・准教授 岩井由加理
- 教授 中條秀俊・清水康司
- 教授 合田雅和
- (学務・農場担当)
- 教授 河田和利・准教授 近藤弘志
- 主席技師 野村和親
- 農場管理 山本雅之・末澤賢二・中條正嗣
- (野菜園芸コース)
- 教授 藤村耕一・野田啓良
- 教育助手 湯原健一
- (花き園芸コース)
- 教授 上原廣大・准教授 大原一能
- 教育助手 久保知里
- (果樹園芸コース)
- 教授 各務好行・准教授 氏家英樹
- 教育助手 高尾遼平
- (造園緑化コース)
- 教授 大西孝志・矢野 清
- 教育助手 富田洋平
- (畜産コース)
- 教授 真鍋圭哲

香川県立農業大学校

2014

学生募集



明るく楽しく元気いっぱい

- 担い手養成科 修学期間…2年 募集人員…45名
 - 推薦入試 願書受付期間：平成25年9月27日(金)～10月10日(木) 試験日：10月17日(木)
 - 一般入試(前期) 願書受付期間：平成25年12月6日(金)～12月20日(金) 試験日：26年1月7日(火)
 - 一般入試(後期) 願書受付期間：平成26年2月14日(金)～2月21日(金) 試験日：26年2月27日(木)

オープンキャンパス 平成25年7月6日(土)、7月28日(日)、
8月9日(金)、8月21日(水)、11月9日(土)

- 技術研修科 就農実践研修 研修期間1年 就農準備研修 研修期間4か月

〒766-0004
香川県仲多度郡琴平町櫻井34-3 TEL(0877)75-1141 <http://www.pref.kagawa.jp/nodai/>

Kagawa Prefectural Agricultural College